

VIII 施設・設備・図書

Ⅷ 施設・設備・図書

1. <観点>施設・設備の状況

(1) 教育研究施設・設備の状況

(観点に係る状況)

1) 本館, E棟, S棟, 講義棟, 総合研究棟

平成 22 年度に, 獣医学教育の改革及び帯広畜産大学との共同獣医学課程の推進を目的に本館 2 階に教育改革室を設置した。教授 1 名が教育改革室において教育改革に関連する業務に従事している。

平成 25 年度に本館内の第 1 実習室, e-ラーニング教育システム室, 第 1 講義室, 及び E 棟内の第 4 実習室に空調設備を設置し, 教育環境を整備した。

平成 25 年度に, 帯広畜産大学との共同獣医学課程を推進するために北海道大学本部からの借入金により, 附属動物病院を新築するとともに, 概算要求により, 旧附属動物病院を総合研究棟として改築した。

平成 25 年度に, 組織標本の観察を支援するためのバーチャルスライドシステムが導入され, 学生実習の高度化が図られた。

平成 25 年度に, 国立大学強化推進補助金により本館 2 階にパーソナルコンピュータを 45 台配置して, インターネット接続が常時可能な e-ラーニング教育システム室を設置した。さらに同年度に, 講義棟と総合研究棟に帯広畜産大学との間に専用の通信回線を複数設置し, 共同獣医学課程を推進するための通信環境を整備した。

2) 附属動物病院 (「研究科 X 附属動物病院」の項参照)

3) 放射線実験施設

現在の放射線棟は平成 10 年度に札幌市の予算で建設され, これまで獣医学部や大学院獣医学研究科の放射線を用いた様々な教育や研究に利用されてきた。

4) 動物施設 (「研究科 IX 共同利用施設」の項参照)

5) 獣医標本施設 (「研究科 IX 共同利用施設」の項参照)

6) 共同利用機器施設 (「研究科 IX 共同利用施設」の項参照)

(2) 情報関連設備の状況

(観点に係る状況)

平成 21 年度に講義棟, 平成 25 年度に本館・E 棟・附属動物病院・講義棟・総合研究棟の講義室及び共用スペースを中心とした各所に, 学内共用無線 LAN のアクセスポイントを設置してネットワーク環境を整備した。平成 25 年度には附属動物病院内 LAN を本館と総合研究棟に拡張し, 本館と総合研究棟から一部の院内システムへの接続を可能とした。

平成 25 年度に, 本館の第 3 演習室, 講義棟内の講堂, 第 3 講義室, 及び会議室に帯広畜産大学との間に専用の通信回線を設置し, 講義や会議などの映像を相互にリアルタイ

ムで送受信できるシステムを構築した。また、同年度の総合研究棟改築時に、棟内の共同講義室に帯広畜産大学との間に専用の通信回線を設置した。

平成 25 年度に本館 2 階にパーソナルコンピュータを 45 台配置して、常時インターネット接続が可能な e-ラーニング教育システム室を設置した。

平成 25 年度から共同獣医学課程の授業用にポータルサイトを構築し運用を行っている。北海道大学と帯広畜産大学の教職員と学生は、パソコンや携帯端末を用いて本ポータルサイトに接続することが可能である。授業の予習・復習や、行事予定の確認などで本ポータルサイトの使用頻度が非常に高いことが学生アンケートから明らかになっている。

(3) 環境整備の状況

(観点に係る状況)

既存の喫煙室について、煙・臭いが周囲に漏れる状況にあるため、改善を図る必要がある。

【観点ごとの分析】

(1) 教育研究施設・設備の状況

講義棟には、講堂、2 つの講義室が整備され、講義、講演会、学会、研修会、公開セミナー等に利用されている。また、講義室、実習室、演習室などに空調設備が設置されたことにより、教育環境の向上が図られた。

(2) 情報関連設備の状況

本館、講義棟、E 棟、附属動物病院、及び総合研究棟の各所に学内共用無線 LAN のアクセスポイントを設置し、ネットワーク環境を整備した。第 3 演習室、講堂、第 3 講義室、共同講義室、及び会議室に帯広畜産大学との間に専用の通信回線を設置し、獣医学共同教育課程における教育推進が図られた。学生の自学自習を支援するために、本館 2 階に常時インターネット接続が可能な e-ラーニング教育システム室を設置した。共同獣医学課程のポータルサイトを構築し運用を開始したことで、学生に対する授業支援体制が改善された。

(3) 環境整備の状況

既存の喫煙室について、煙・臭いが周囲に漏れる状況にあるため、改善を図る必要がある。

【分析項目の水準と判断理由・改善方策】

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていると判断できる。

(改善方策)

既存の喫煙室については、改善方策の検討を行う。

2. <観点>図書の状況

【観点ごとの分析】

(1) 図書の整備

(観点到に係る状況)

平成 26 年 3 月 31 日現在、獣医学研究科・獣医学部が所蔵している蔵書は資料 58 のとおりである。図書 37,015 冊、学術雑誌 1,420 種、視聴覚資料 61 タイトルを保有しており、電子資料としては、全学の一本化した契約・公開システムの元、電子ジャーナル 20,735 種、電子ブック 31,041 タイトル、データベース 47 種を提供している。過去 3 年間の図書、学術雑誌の受入数は資料 59 のとおりであるが、洋雑誌の価格高騰、発行元によるプリント版から電子ジャーナル版への移行の影響により、学術雑誌の受入数は全国的に年々減少傾向にある。

図書室における図書・学術雑誌の選定方法については、図書については学生・教員からのリクエスト図書を中心に選定を行い、学術雑誌については図書委員会において購入方針の決定・選定を行っている。すでに図書委員会において図書・雑誌等の電子版購入の方針を進めており、プリント版から電子版への移行が進みつつある。

なお、受入された図書等の資料については 5 年サイクルで蔵書点検を実施し、適正な蔵書管理を行っている。

資料 58 蔵書の状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

区分	図書	学術雑誌	視聴覚資料	電子ジャーナル	電子ブック	データベース
和	10,975	559 種	55 タイトル	1,436 種	164 タイトル	15 種
洋	26,040	861 種	6 タイトル	19,299 種	30,877 タイトル	32 種
計	37,015	1,420 種	61 タイトル	20,735 種	31,041 タイトル	47 種

出典：図書担当データ

資料 59 資料受入数の推移（平成 22 年度～平成 25 年度）

年度	図書	学術雑誌
平成 22 年度	209 冊	203 種
平成 23 年度	217 冊	194 種
平成 24 年度	200 冊	181 種
平成 25 年度	176 冊	170 種

出典：図書担当データ

(2) 施設・設備

図書室についての施設・設備一覧は資料 60 のとおりである。現図書室は本館の 1 階に位置し、総面積 252m²、図書収容能力約 5.1 万冊である。閲覧室や同じ棟内にある eラーニング教育システム室と連携して、主な利用者である学生を中心に学習・研究の場を提供している。

また、無断持出防止装置(BDS)を導入し、入室者の管理や図書不正持ち出し防止等のセキュリティを高めている。

資料 60 図書室の施設・整備の状況

施設		設備	
閲覧室	56 m ²	無断持出防止装置 (BDS)	一式
第一書庫	112 m ²	入出管理システム (電気錠)	一式
第二書庫	56 m ²	閲覧席	16 席
事務スペース	28 m ²	情報検索端末	3 台

出典：図書担当データ，会計担当データ

(3) 利用者サービス

獣医学研究科に所属する学生・教職員は 24 時間図書室の使用が可能となっているが、図書の貸出手続は図書事務室が開室中（平日 9 時から 17 時まで）のみとなっている。

図書室は一般市民にも開放しており、附属図書館で図書館利用証の交付を受けた人には資料の貸出も行っている。図書室の利用時間は資料 61 のとおりである。

平成 22 年度から平成 25 年度までの貸出数は資料 62 のように推移している。資料の貸出は学生証または職員証，図書館利用証の提示により，図書については 3 冊以内で 8 日まで，雑誌については 5 冊で以内 3 日まで貸出を行っている。

平成 25 年度の室外への個人貸出数は 1,362 冊（うち学生への貸出 1,035 冊）である。在学学生数（院生を含む）が約 300 人であるので，年間における学生 1 人あたりの貸出数は平均で約 3 冊となる。

なお，図書室では，資料 63 のように学生を対象に，定期的に図書室の利用方法，情報検索等についての講習会を行っており，情報教育の一環を担っている。

資料 61 開室日・時間

平日	9:00～17:00
土曜日・日曜日・祝日・年末年始 (12/29～1/3)	休室

但し，カードキー利用で通年 24 時間利用可能である。

出典：図書担当データ

資料 62 室外個人貸出数の推移

年度	総数	うち学生
平成 22 年度	1,962 冊	1,713 冊
平成 23 年度	1,482 冊	1,202 冊
平成 24 年度	1,484 冊	1,288 冊
平成 25 年度	1,362 冊	1,035 冊

出典：図書担当データ

資料 63 利用者教育の状況

講習会内容	対象者	年間開催回数
情報検索講習会	学部 3 年生	1 回

出典：図書担当データ

(4) 他機関との連携

図書室では他大学等各機関と協力して所蔵資料の相互利用を行っている。平成 22 年度から平成 25 年度までの学外との図書貸出数は資料 64，文献複写件数は資料 65 のとおりである。

資料 64 学外図書貸借受付・依頼件数の推移

年度	受付	依頼	計
平成 22 年度	4 冊	0 冊	4 冊
平成 23 年度	4 冊	1 冊	5 冊
平成 24 年度	4 冊	0 冊	4 冊
平成 25 年度	3 冊	3 冊	6 冊

出典：図書担当データ

資料 65 学外文献複写受付・依頼件数の推移

年度	受付	依頼	計
平成 22 年度	323 件	83 件	406 件
平成 23 年度	242 件	69 件	311 件
平成 24 年度	166 件	61 件	227 件
平成 25 年度	123 件	61 件	184 件

出典：図書担当データ

【分析項目の水準と判断理由・改善方策】

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

大学院獣医学研究科・獣医学部の蔵書数は約 37,015 万冊だが、このうち、利用者が図書室で自由に閲覧することができる資料は約 5,743 冊あり、学生一人あたり 19 冊となる。

所属の学生・教職員ならば、カードキーを用いることでほぼ通年 24 時間利用することができ、閲覧室及び e-ラーニング教育システム室とあわせて、学生学習環境としては十分に利用者のニーズに対応できるものとなっている。

年間の他機関との相互利用件数（文献複写件数）は約 180 件であり、国内所蔵が当図書室のみである資料や、国内所蔵が少ない資料を本図書室が保有しているため、これらの資料に文献複写依頼が集中する傾向にある。

本図書室の蔵書、施設規模・設備、及びサービス機能は、利用者のニーズを取り入れた満足度の高いものであり、他大学の獣医系図書館・図書室と遜色ない施設となっている。

(改善方策)

更なる利用の拡大をめざし、以下の点について整備を推進する。

教育・研究上のニーズをさらに広く把握し、それを満たす資料の購入、及び設備の導入を計画的に進める。

主たる利用者である学生の利便性に即した利用者サービスの拡充を図る。